

五期俳句会 第百五十四回 六月二日

今回は久貝さんが、体調を崩してお休み、少し前からとかで投句もなし。習字の方は会場のすぐ前に、ご子息のお住まいがあり、お嫁さんが、次の本を持って来て、こちらの作品を持ち帰ると、言う二往復して下さって、どうにか切り抜けた。

季節外れの猛暑に、思考能力も低下中々良い句が出来ない、季もまちまちで、若葉が有るかと思うと深緑があり、ま・仕方ないか。

騒がしや鳩えんどうの莢つつく 今井由紀子

はりえんじゅ白き房花ほの薫る 松浦武子

記念列車乗れてラッキー五月尽 浅香さとみ

郭公の声こだまして聞こえけり 松浦武子

句づくりの糸口繋ぐ深みどり 塩田豆子

祝われて傘寿も良しか五月尽 浅香さとみ

初夏や八十の鬘小さく結ぶ 浅香さとみ

万緑の中に立ち居て元気満つ 今井由紀子

摘み帰る蓬のレシピ迷ひをり 塩田豆子

芍薬の咲いて乙女の艶姿 今井由紀子

深き青何を秘めしか花菖蒲 今井由紀子

万緑の樹樹に埋もれし宮社

塩田豆子

薔薇薫る色夫々に香も替り

松浦武子

ゆく春を暮るる夕日に惜しみ見る

塩田豆子

風入れて単衣の袖の軽やかに

浅香さとみ

先日京都に行き「もう一つの大谷探検隊」と言うのを龍谷ミュージアムで観てきました。二人の僧が、ネパールからとインドから別々にチベットへいってきて、いくつかの仏像や曼荼羅など貴重な物をグライラマから直接頂いたとか。チベットは四千メートル以上有るので、そこで生まれた人は兎も角苦しかっただろうと思います。私もまだ青蔵鉄道が出来る前、バスで崑崙山脈を越えて行きましたが、ツアーの人の中には、病院で一泊して酸素吸入をしたとか。ついでに、偶にはこんな報告もいいでしょ。